



1. 安全教育の取組

＜はじめに＞ 安全確保のために必要な知識・行動を理解し、生命尊重や安全な生活を送る基礎を培い、安全で安心な社会づくりに貢献できるようにすることを目的に以下の取組を進めてきました。

＜取組＞



(1) 登下校指導 <4月11~13日>
年度始め、本校職員で校舎西側・北側・南東側の道路の交差点や横断箇所にて交通指導を行いました。（町内会の方には毎日見守っていただいています）



(2) 自転車点検 <4月18~21日>
全国的に事故の多い自転車の使用についての指導と、点検を実施しました。



(3) 避難訓練 <5月15日、9月11日>
様々な状況下で、避難経路や「危険を予測し、回避する」行動を確認しました。



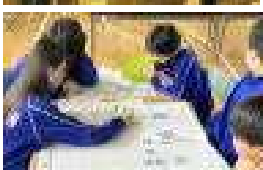
(4) SNS教室 <7月20日>
勝毎デジタル担当職員を講師に、情報リテラシーを身につけ、情報を賢く扱うにはどうしたらいいのかを考える学習を実施しました。



(5) 防災学習 <10月~12月>
学年毎のテーマで、
① 1年「地域探索」（10月17日）、
② 2年「避難所設営」（12月6日）、
③ 3年「避難所運営」（11月28日）を実施し、地域の中での役割について考えを深めました。



(6) いのちの学習 <10月~12月>
市民福祉部職員を講師に「多様な性」についての学習(10月13日)、助産師を講師に「生と性」についての学習(12月12日)を行いました。思春期の心と体について学習し、命の尊さについて考えました。

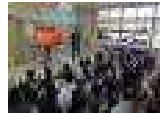


(7) 薬物乱用防止教室 <3月予定>
講師を招いて、3年生を対象に薬物の恐ろしさや、忍び寄る誘惑から自身を守るための学習をします。



＜本校の特色として＞

(5) 防災学習 「災害時 "地域の要" になることを願って…」
「危険から身を守る」学習から、「地域のためにできること」を深く考える機会にしています。



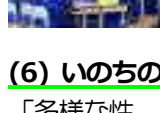
① 1年「地域探索」
災害時に必要なものや施設などを探し出すウオークラリー「**防災フォトスカベンジャーハント**」を実施。振り返りでは、災害時に危険になる物や場所、防災の機能があるもの、工夫することで被災時に活用できるものなど、「多くすることに気づいた」という感想が寄せられました。



② 2年「避難所設営」
体育館に避難所を設営。班に分かれて協力・相談しながら、テントや段ボールベッド、仕切りなどを組み立て、使い勝手を確認しました。手早く組み立てる方法や、使う人が利用しやすい工夫など、体験や対話を交えて、よりよい使いやすい方法を考えながら作業を進めていました。



③ 3年「避難所運営」
「HUG」を使って、避難所運営のシミュレーションを実施。刻々と変化する状況下で、様々な避難者（子ども、老人、妊婦、けがや持病のある人、ペット、発熱者など）ができるだけ快適に過ごせる方法について、話し合いながら考えました。



(6) いのちの学習 「自分を守り、相手を守り、命を守る」
「多様な性、思春期の心と体」への理解を通して、「いのちの尊さ、責任」について深く考える機会にしています。



① 「多様な性」の学習
性の多様性、当事者の悩みについて学習。振り返りでは、「多様性を認め合うこと」、「人権の大切さ」、「悩んでいる人に自分ができることは何か」などについての感想が寄せられました。



② 「生と性」の学習
「いのちの誕生の奇蹟」、「思春期の心と体」、「望まない妊娠や性感染症」、「避妊」、「デートDVなどの性暴力」、「SNSの正しい選択」について学習。振り返りでは、「性暴力やいやな思いをなくすためにどうしたらいいのか」や「SOSの出し方」、「悩んでいる人へのサポート」などについての感想が寄せられました。



＜成果＞

- 学習を通して、「今だけ、自分だけ」ではなく、「これから、みんなも」幸せに生活するために、「自分にできることは何だろう」と考えている感想が多く寄せられました。
 - また、困ったときには相談する勇気が大切で、相談できる窓口が沢山あることを知り安心したという生徒も多かったです。
- ※今後も、さらに工夫しながら、取組を継続していきたい。

<お願い>

年度末を迎え、この一年間の本校の取組をご報告いたします。

紙面が細かく申し訳ありません。可能な限り目を通していただけるとありがたいです。

できれば、全家庭から、取組についての評価をいただき、その結果を今後の学校経営の充実に生かしたいと考えております。別紙にて、学校評価へのご協力をお願いいたします。

2. 学力向上を目指して

学ぶ人

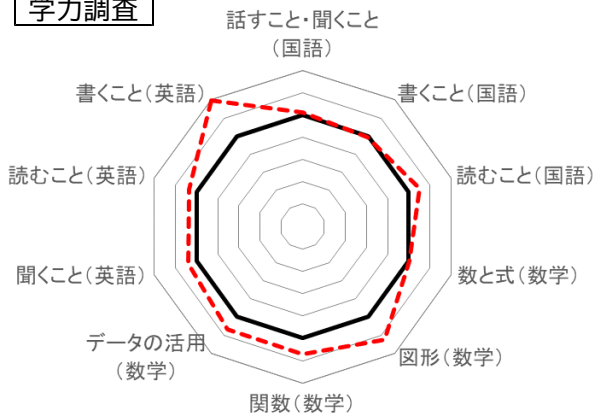
<全国学力・学習状況調査>



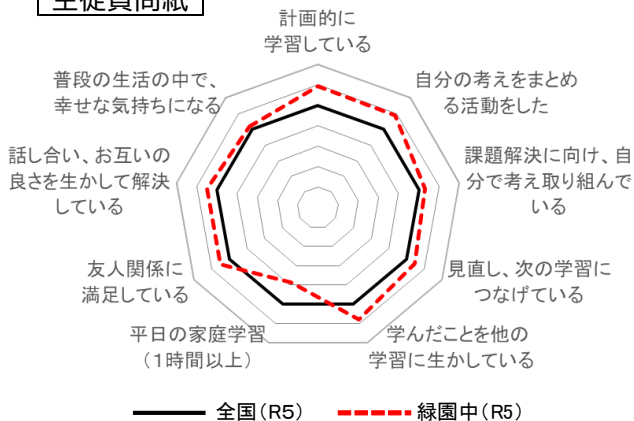
4月18日、3年生を対象に国語・数学・英語を実施しました。(英語「話すこと」は後日実施)



学力調査



生徒質問紙



国語

- 平均正答率が全道・全国を上回っている。
- 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることにおいて、正答率が全道・全国を大きく上回っている。
- 自分の考えを伝えるために、根拠を明確にする情報を引用して書こうとする意識が、全道・全国を大きく上回っている。
- △ 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題が見られた。

数学

- 平均正答率が全道・全国を上回っている。
- 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することにおいて、正答率が全道・全国を大きく上回っている。
- 記述問題を全て最後まで解答しようとする意識が高い。
- △ データを比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。

英語

- 平均正答率が全道・全国を大きく上回っている。
- 情報を正確に聞き取ることに於いて正答率が高い。
- 英語の勉強は大切、授業がわかる、将来役に立つと感じている生徒の割合が全道・全国を大きく上回っている。
- △ 授業において、自分の考えや気持ちを英語で伝え合うことや文章で書くことに課題が見られた。

生徒質問紙

- 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組もうとしていた生徒の割合が、全道・全国を上回っている。
- 授業で学んだことを、ほかの学習に生かそうとしている生徒の割合が、全道・全国を大きく上回っている。
- 分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげようとしている生徒の割合が、全国を大きく上回っている。

生徒の変容と実態

- 根拠をもとに自分の考えをまとめ、伝えようとする意欲が高まっていました。(無回答率が低い)
朝学習や各授業において、考えをまとめ、伝える活動を意図的に取り入れ、継続してきた成果と考えています。
- △ 相手に伝わるように表現することにおいて課題が見られました。以下の取組を継続し、思考力・判断力・表現力を高める「対話活動」を充実させます。また、家庭での学習習慣の定着に向けても進めていきます。(具体的な取組は次ページに掲載)
- ① 授業の中で、自分の考えの「理由」を話したり、書いたりするアウトプットの時間や、合意形成する機会を設けます。
(知識をつなげる、自分の考えをまとめる、合意形成をつくる活動)
- ② 朝の時間(週に1回)を使って「対話活動」を行います。
(お題について自分の考えをもち、その理由をはっきりさせ、対話や文章にまとめる学習)
- ③ 指導工夫、授業改善、学習習慣の定着により、「できた」「わかった」喜びを感じる主体的な学びを目指します。
- ④ チャレンジテストや学力テスト・定期テスト・標準学力検査等を活用しながら、短期間で検証・改善します。

<取組> (1) 指導工夫で学びの充実へ

① 読書活動・対話活動



<緑園タイム>

読むことの習慣化、落ち着いた日常を定着していく「朝読書」に加え、自分の考えをまとめ、伝える力を向上させる「対話活動」を朝の会の前に行ってきました。

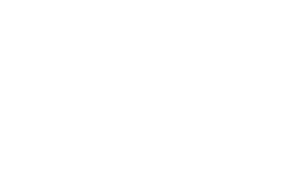
② ICT活用



<タブレットの活用>

大型モニターや、1人1台端末の活用により、個々の習熟度や興味に応じた学習を充実させるなど、効果的な指導工夫を進めてきました。

③ 放課後学習会



<緑園自習室>

毎週水曜日の放課後に実施し、教員や学習指導員に質問しながら、宿題やeライブラリー等、自分の課題に合わせた学習を行ってきました。

④ 長期休業学習会



<学習会>

- ・夏(8月2~4日)、地域ボランティア協力のもと実施。
- ・冬(12月25~27日)、南商生・畜大生・地域ボランティア(のべ9名)協力のもと、参加者(のべ34名)は、宿題や課題、eライブラリー等に取り組みました。

<お花教室>

- ・夏(8月3日)、地域ボランティアを講師に、参加者30名は思い思いに「夏の花」をアレンジしました。
- ・冬(12月26日)、地域ボランティアを講師に、南商生・緑園生ボランティアの協力のもと、参加者41名は「お正月の花」をアレンジしました。お花教室を通して、表現力や情操を高める活動を行いました。

(お花教室)



(実験教室)



<実験教室>

- ・夏(8月4日)、ブタの眼球解剖実験、見え方実験を実施し、35名が参加しました。
- ・冬(12月27日)、南商生ボランティアの協力のもと、ウシの生殖器官解剖実験、遺伝のしくみや性周期についての学習を実施し、38名が参加しました。十勝の歴史や畜産業、食文化についても学習を深め、エリアの生徒児童・保護者・教職員・地域住民が参加しました。

<成果>

○ボランティアのサポートにより、学習会や実験教室等が充実し、補充的学習や発展的学習の機会が増え、参加者も増えました。
※今後も、さらに工夫しながら、取組を継続していきたい。

(2) よりよい授業を目指して

研究テーマ「思考力・判断力・表現力を育む指導方法の工夫」～対話力を育むための活動の充実～を目指し、計画的に校内研修(教員や関係者による授業参観や協議)を行ってきました。



① コーチング研修 <6月19日>

秦公一さん(国際コーチング連盟アソシエイト認定コーチ)を講師に招き、「対話力を育む授業づくり」のための学習会を行いました。効果的な「対話」を生み出す具体的な方法など、演習を交えて学習しました。

② ICT活用研修 <7月10日>

「授業におけるICTの効果的活用」について、取組の先進校である愛知県春日井市の学校での取組や、様々なアプリの活用例を参考に、動画や演習を交えて研修を行いました。

③ 授業研究

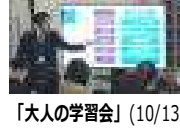
校内で計画的に全学年の授業研究を実施。10月~11月は2度にわたって指導主事を招き、全学年の研究授業と協議を行いました。ICTの活用、対話による思考力・判断力・表現力を高める授業づくりについて、今後も積極的に外部の助言を活用していきます。

④ 授業アンケート・生活学習アンケート <学期毎>

生徒アンケート・教員アンケートを学期毎にとり、定期的に取り組む振り返って、授業づくりの参考にしています。

1. 授業で「わかった」「できるようになった」達成感
国: 84% → 83% / 数: 91% → 92% / 理: 91% → 93%
社: 92% → 93% / 英: 84% → 83% (1学期 → 2学期)
2. 授業に「対話活動」があると、考えが深まる
全校: 96% → 97% (1学期 → 2学期)
3. 友達の話や意見を最後まで聞くことができる
全校: 91% → 94% → 94% (R5.1月 → 1学期 → 2学期)
4. 自分の考えや意見を発表することは得意である
全校: 49% → 53% → 56% (R5.1月 → 1学期 → 2学期)
5. 休日の学習時間(2時間以上)
全校: 29% → 36% (1学期 → 2学期) ※少しずつ増加している

(3) 学習習慣の定着を目指して



「大人の学習会」(10/13)

① 家庭学習の推進

宿題や課題以外に、eライブラリーや学習ノートなどを活用しています。先生からの励ましや助言などで、多くの生徒が、工夫しながら粘り強く取り組んでいました。

② 自らの取組への振り返り

テスト計画表の振り返りや教育相談により、将来を見据え、自分を見つめる機会としていました。多くの生徒は、考えを整理し、自己決定して行動に責任や覚悟をもつようになりました。

<成果>

- 授業づくりと、アンケートによる生徒からの評価、教員の自己評価を組み合わせることで、より効果的な取組の改善につながり、生徒の達成感が高い状態で維持できました。
- キャリア教育の視点で教育活動や教育相談を実施することで、生徒は将来を見据え、主体的な取組へと変化していきました。
※今後も、さらに工夫しながら、取組を継続していきたい。

3. 体力向上を目指して 鍛える人

<取組> (1) 体育授業の工夫



効率的な体の使い方の指導や、基礎的な筋力を向上させる運動を取り入れ、運動量を確保した授業展開を行ってきました。

目的をもって授業に臨み、ICT活用や教え合い、振り返りを通して「できるようになった」喜びを感じられる授業を目指してきました。

(2) 「対抗戦」の実施

■ 体育祭「頑張ることは格好いい！」<5/27>



コロナ禍を経て、改めて大切にしたい「密」な関わりを、4年ぶりに行うことができました。

「頑張ることは格好いい！」

「心を一つに揃えることは素敵なこと！」



<女王君臨> 力を合わせ旗を立てる様子

一人一人が役割を果たそうと努力し、励まし合いながら体育祭に臨みました。チームのために、できることを考え、得意・不得意を越えて、全力で汗を流す。応援し、健闘を讃え合い、そして、感動を共有している姿を見ると、一人一人が「主役」になっていることが伝わってきました。子どもたちは、挑戦することや仲間と関わることを通して、自分や仲間のことを深く考えていました。



<開会式> 学級旗を掲げ「選手宣誓」を行う様子



<力強い応援> 全力で仲間を応援する様子

<全校統一の団体種目>

激流下り、大ムカデ、大縄とびを全校統一種目として行いました。学年が上がるほどレベルアップしていく様子は、中学校3年間の成長が伝わってきました。



<大ムカデ、激流下り、大縄とび> 学年が上がる毎に難易度が高くなる種目「心一つに競技する姿」

<応援スペースからの熱い声援>

今年度、新設した「応援スペース」で、保護者の皆さんは学級カラーのグッズ（うちわや風車、リストバンドやTシャツ、帽子など）を身につけ、熱い応援をしてくれました。

保護者一体の大きな声援に、子どもたちは、全力の姿で応援していました。



■ 球技大会・合同体育 <秋～冬>

体育祭の他にも、合同体育や球技大会として、1年生はバレーボール、2年生はバドミントン、3年生はハンドボール、全学年共通でソフトボールとアイスホッケーを実施しました。



生徒は様々な種目の特性や楽しさを味わい、対抗戦を通して仲間意識を高めていました。

(3) 日常的に運動に親しむ機会の設定



① 運動施設の開放

昼休みの体育館・グラウンド開放、放課後等のリンク開放で、多くの生徒が楽しく汗を流していました。



② 生徒会企画

生徒会で交流会を企画し、全校ドッチボールなどのレクリエーションで楽しみました。



③ 部活動等

日々汗を流している生徒がたくさんいます。

<リンク造成の様子>



(4) 感染対策と教育活動

5月、新型コロナウイルス感染症が5類に移行しましたが、感染状況を注視し、その都度、市教委の指導・助言のもと教育活動を進めてきました。

(5) 望ましい生活習慣の定着

① 食育指導

栄養教諭による食育指導を通して、「食の大切さ」「規則正しい生活習慣」について学習してきました。



※食育掲示板・通信

食に関する情報発信や、質疑応答に活用しています。

※「朝食レシピ」(1年)・「給食献立」(2年)への応募

本校生徒のアイデアで、3年生(受検生)にエールを込めたメニュー「がんばり丼」が見事採用され、3月に提供されることが決定しました。



※「調理実習」(3年)

北海道ホテル総料理長を招いて、「ポテトニョッキのクラムチャウダー」づくりに挑戦しました。「美味しい」と談笑し、受験勉強の合間の楽しい一時を過ごしていました。



② 教育相談等

担任による生徒や保護者との教育相談、顧問による部活動指導等を通して、「栄養・休養・運動の大切さ」を保護者に協力していただきながら伝えてきました。



<成果> 振り返り・感想・生活学習実態調査(12月結果)より

- 体育の振り返りや行事の感想等を見ると、「楽しい」と感じている生徒が多い。目的をもって授業や行事に臨み、教え合ったり、協力したりして、達成感を得ていると考えています。
- 「朝食はほぼ毎日食べている」と答えた生徒の割合は92%(前年比±0)、「ほぼ同じ時刻に寝ている」は84%(前年比+4)でした。保健体育や食育指導等を通して、健康についての意識が高まっていると考えています。

※全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は、後日報告します。